



こんにちは

日本共産党市議会議員

小野寺ゆきえです！

2025年
7月27日
No.1103



参議院選挙の結果～共産党の役割は

参議院選挙の結果、紙智子さんのバトンを引き継いだのはたやま和也さんを当選させることができず、また議席を減らしたことは、とても残念です。みなさんの大きな期待に応えることができず、本当に申し訳ありません。

一方で、参議院でも自民・公明党を過半数割れにすることができました。暑い中、応援いただいたみなさんに心から感謝を申し上げます。

昨年10月の総選挙では、“裏金問題”をしんぶん赤旗がスクープし、市民の熱い世論で自民党を追い詰め、衆議院で自公を過半数に追い込みました。「今度は参議院でも」との目標でたたかっただけに、ホッとしています。

また、投票率が前参院選よりも6.46ポイントも伸びました。総選挙の結果を受け、市民の中に「声をあげれば政治を変えることができる」という希望と期待が広がったように感じます。

だからこそ、今回の参議院選挙では「投票に行こう」「自分で自分の代表を選ぼう」という意識が高まったように思えます。

今回は、国民民主党と参政党が議席を伸ばしましたが、私はとても不安を感じています。国民民主党も参政党も医療費の削減を公約にし、「若い世代の負担を減らす」と、終末期医療の見直しや延命治療の全額自己負担導入などを掲げています。さらに参政党は「日本人ファースト」と外国人差別も強調し、「天皇主権」も主張しています。

この考え方は、どちらも“分断”を持ち込む考えです。

「高齢者にお金がかかるから若者の負担が増え、社会が良くなならない」「外国人を優遇するから国民の暮らしが大変」「不法外国人が悪い」という、若者と高齢者、日本人と外国人の対立を煽る事実を歪めた発想です。そのうえ「天皇主権」の政治など、とんでもありません。

暮らしが大変なのは、高齢者のせいでも外国人のせいでもなく、政治の責任です。社会保障をどんどん削って防衛費を増やしてきたのはだれなのか。消費税を増税する一方で大企業がもうかる仕組みをつくったのはだれなのか。自民党政治です。外国人の犯罪件数は大きく減っており、外国人を優遇している事実もありません。

自公政治に手を貸し、さらに悪い方向に政治を進める野党とも対峙し、国民と力を合わせて国民の立場で政治を良くしていく。今後の日本共産党の重要な役割です。